

事業の背景・目的

本種が国内希少野生動植物種に指定された2019年から、捕獲等の許可を得て本種の捕獲や飼養による調査を実施している。生息域内では2019年、新潟県下越地方で3箇所新たな生息地を発見する成果を上げている。生息域外では、飼養により頻繁に砂泥に潜ることや、夜間に活弁になる傾向がある行動生態を明らかにしている。本事業で繁殖を成功させ、繁殖技術を確立して生息域外保全の基盤とする。更に生息地調査も実施することにより、生活史や繁殖生態などの生態を解明し、新規の生息地を探す調査も実施する。併せて普及啓発を行い本種を保全する。

事業の内容

ア 生息域外保全事業

令和3年度から本事業により、繁殖の機会を増やすとともに、繁殖に適する飼養環境を調査するため水槽を増設し、令和5年度には、冬季の飼養環境を生息地に近づけるため、クーラーを用いて飼養水温を下げた。繁殖や域外保全の備えが概ねできている。

イ 生息地調査事業

既知の生息地の調査と新規の生息地を探す調査を、令和3年度は5回（日）延べ19箇所、令和4年度は10回（日）延べ30箇所、令和5年度7回（日）延べ19箇所実施した。

ウ 普及啓発事業

通年展示と様々なメディアを用いて広く情報発信を実施した。本事業最終年の令和5年度には、令和6年2月17日に、研究者2名を講師に招き「講演会 研究者が語る新潟県の淡水魚とコシノハゼ」を実施した。

得られた成果

ア 生息域外保全事業

令和4年5月7日に本種の飼育下、初記録の産卵があり、雄による卵保護と卵を記録した。卵は一端に付着糸叢のある付着沈性卵で、卵数85粒、うち正常に基質に付着し垂下していたのは6粒であった。卵は発生せず繁殖に至らなかった。

イ 生息地調査事業

毎年、既知の生息地の調査を実施し、1箇所では毎年、行われる排水時に流下防止と混獲防止を実施している。新規の生息地では、令和3年度に新潟県下越地方で1箇所、令和5年度に新潟県中越地方で隣接する2箇所を発見している。

ウ 普及啓発事業

「講演会 研究者が語る新潟県の淡水魚とコシノハゼ」では、専門的な情報に加え、当財団の本事業の成果も紹介することで、より深く認知度の向上と保全意識の醸成を図ることができた。